

明治22年に佐世保鎮守府が開庁し、佐世保港が開港してから本年で130周年を迎えました。今回の特集では、本市発展の礎となり、歴史の大きな転換期となったこの時代に着目し、鎮守府が設置されることになった背景や日本の最先端技術と巨費を投じて造られた近代化遺産の歴史、当時の歴史を体感できるおすすめツアーなどについてお知らせします。

鎮守府の開庁と市街地の建設

明治維新を迎え、近代国家として歩み始めた日本にとって最も重要な課題の一つが「外国からいかに国を守るか」ということでした。特に島国である日本にとって「海の守り」は国家の存亡に関わる問題であり、近代的な海軍の創設が急がれました。

そこで政府は軍艦の購入や建造を進め、同時にフランス海軍の制度を手本に海軍基地となる「鎮守府」の設置を計画しました。

鎮守府設置のための調査は日本各地で行われ、佐世保には明治16（1883）年に軍艦「第二丁卯」（東郷平八郎艦長）が初めて入港し、綿密な調査が行われました。この他にも伊万里湾や平戸の古江湾も同じように調査が行われましたが、天然の良港であることに加え、中国大陸に面している点や、沖縄、吉岐、対馬、五島などを警備する上で都合が良いことから、同19年に佐世保への鎮守府設置が決定しました。

その直後から鎮守府の建設工事が始められました。山を切り崩し、湿地や水田を埋め立てる大規模なもので、多くの死傷者を出す過酷な工事でしたが、明治22年にはおおむね完成し、同年7月には、佐世保鎮守府が開庁しました。鎮守府には軍港と造船部（後の佐世保海軍工廠）も併設されており、開庁後も船渠（ドック）や各種工場が次々と建設されていきました。

一方、鎮守府が設置される前の佐世保は干拓地や湿地が広がる人口4千人ほどの村でした。そのため鎮守府設置が決定されると同時に、近代的な市街地の建設も計画されました。これは鎮守府設置により押し寄せた人々たちによる無秩序な家屋建設を防ぐ狙いもありました。

当時の佐世保の都市計画は、中心となる道路を完成させ、その道路に沿って碁盤の目状の市街地を建設するというものでした。この中心となる道路が現在のアーケード通りであり、当時建設された碁盤の目状の市街地は現在まで受け継がれています。

このように、佐世保は明治時代における国家戦略の中で誕生した近代都市だったのです。



金比良山の切り崩し
切り崩しには火薬（地雷火）も使われましたが、まだ機械もなく人力だけで行われていました



都市計画によって建物が整然と並ぶ市街地（明治末期～大正初期頃）。
現在の佐世保玉屋付近から市役所方面を撮影したもの



特集 佐世保鎮守府開庁130周年記念 近代都市「佐世保」の誕生



海軍による近代水道の創設

鎮守府の設置とそれに伴う市街地の建設により、佐世保は近代都市としての体裁を整えていきました。人口も激増しましたが、その一方で深刻になっていたことが水の問題でした。

鎮守府用の上水道は開庁後間もなく完成していましたが、一般の人々は昔ながらの井戸水や川の水を利用していたため、水不足や不衛生な水による伝染病の流行が後を絶ちませんでした。海軍としても安全な水が必要であり、佐世保の衛生状態は軍の戦力にも影響するため、水問題の解決は緊急の課題になっていました。

明治27(1894)年に日清戦争が勃発し、佐世保は連合艦隊の基地として重要な役割を担うことになりました。しかし、佐世保には満足な水道施設がなく、海軍は水の確保に大変苦労しました。

そこで、日清戦争後、海軍は長崎や神戸で水道建設を成功させた技師吉村長策(1860~1928年)に設計を委託し、同34年までに岡本水源地や矢岳浄水場を主な施設とする全国で13番目の近代水道施設を完成させました。これは主に軍用でしたが、このことにより市民も手桶による販売で水道水を利用できるようになりました。

日清戦争から日露戦争までの10年間



よしむらちようまく 吉村長策

で、佐世保は大きく変貌しました。海軍施設の充実に加えて鉄道も開通し、人口は九州で十指に入るまでになりました。そして、同35年には「佐世保村」から「町」を昇格し人口約4万5千人の「佐世保市」が誕生しました。

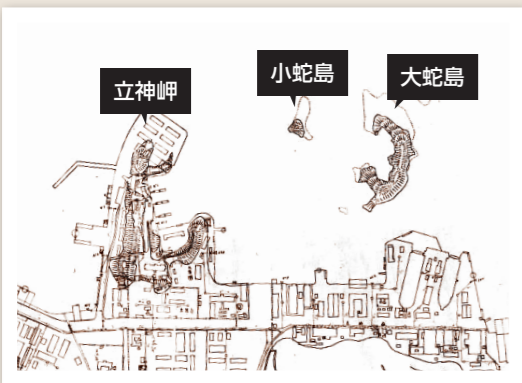
このような市の変貌に伴い、水需要も増える一方でした。そのため日露戦争後間もなく海軍による水道拡張計画され、同41年までに山の田貯水池と浄水場が完成しました。この工事も佐世保鎮守府建築科長を務めていた吉村長策によって行われました。

こうした中、佐世保市内にも初めて水道管が敷かれ、海軍からの浄水分与という形で同40年から市民に給水が始まりました。これは全国で10番目の都市水道であり、佐世保は名実ともに近代都市としての機能を備え、以降の発展に大きな影響を及ぼしました。

巨額の費用と最新の技術を投入

佐世保に鎮守府設置が決まると、周辺には岸壁や船渠(ドック)、工場などが次々と整備されました。その大部分は太平洋戦争までの約60年間に海軍が巨費を投じて造り上げたものですが、特に明治から大正にかけて行われた工事が佐世保港の形を大きく変えました。

日露戦争後には、戦争で損害を受けた艦船を迅速に修理することが求められたため、大規模な工事が次々と行われました。その中で最も力を注いだのが「立神係船池(修理艦船係留場)」の建造です。海軍工場の海側に突き出ている立神岬と、大蛇島、小蛇島を堤防で取り囲み、入り口をふさいで海水をくみ出し、海底を掘削して泥を運び出し、岸壁を築造した後に、再び海水を入れ



明治36年頃の佐世保軍港

るといふこの事業。係船池は南北に約576m、東西に約364mもある巨大なもので、「明治時代における海軍最大の土木工事」と評されました。

明治38(1905)年に始まった工事は大正5(1916)年、実に11年の歳月を要して完成しました。この工事には当時最新技術だった鉄筋コンクリートが全面的に使用されましたが、常に海水に触れる岸壁に使用することは初めての試みでした。この技術は海軍技師・真島健三郎(1873~1941年)の設計によるもので、真島技師は鉄筋コンクリートを徹底的に研究し、十分な確信を持って建造に当たりました。

立神係船池は百年以上経過した現在でも全く問題なく使用されており、真島技師の目的の確かさを今に伝えています。

岸壁の周りには、係船池の建造と並行し、いくつものクレーンが設置されました。中でも目を引くのが、今も現役で使用されている250トンの大クレーンです。イギリスに注文して造られたもので、組み立てもイギリス人技師が指導を行い、大正2年に完成しました。戦艦の巨大大砲や機械の取り替えを自由自在にやっけるなど、迅速な修理に大いに貢献しました。



現在の岡本水源地(十文野町)

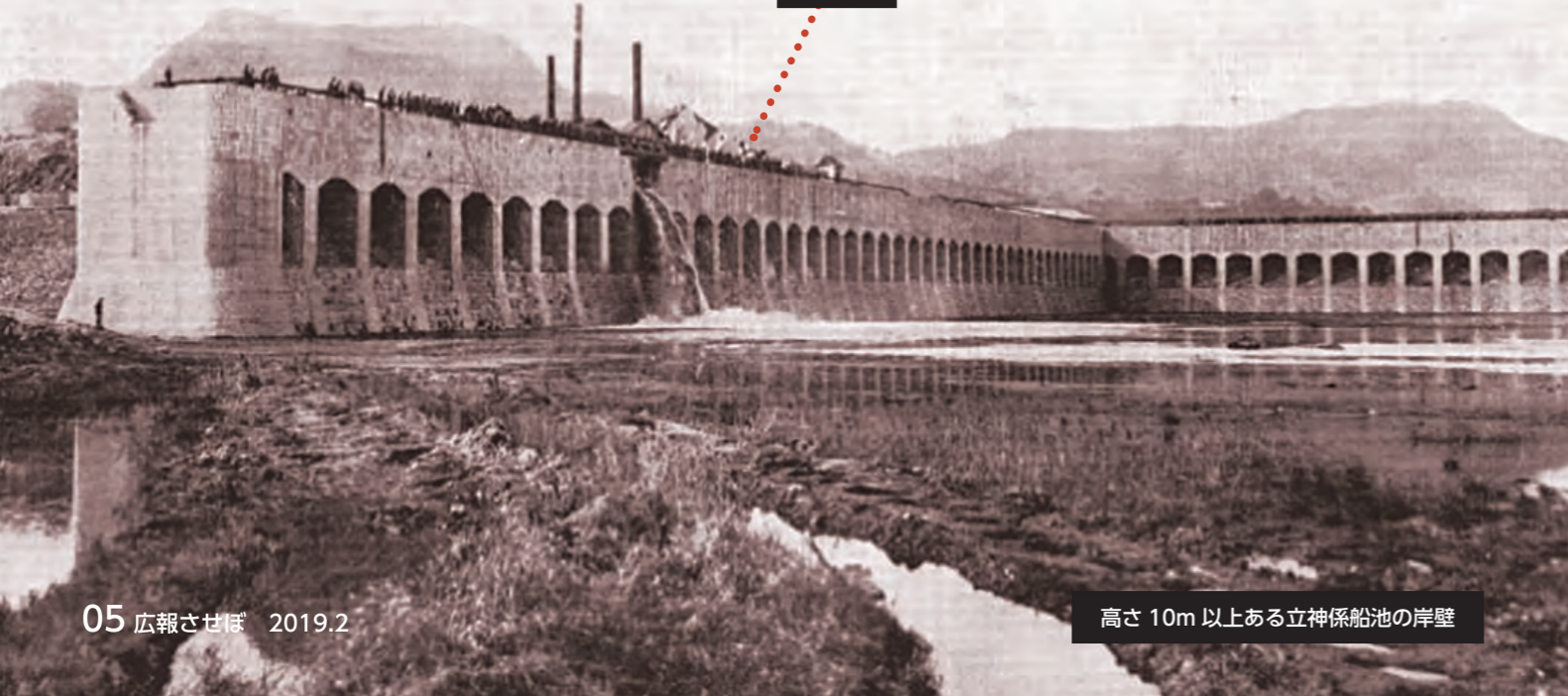


現在の立神係船池

250トンのクレーン
(国登録有形文化財)

立神係船池

下写真の岸壁



高さ10m以上ある立神係船池の岸壁

針尾送信所見学



「旧佐世保無線電信所（針尾送信所）施設」は平成 25 年に国重要文化財（建造物）に指定され、その一部が公開されています。現地では「針尾無線塔保存会」の皆さんがガイドや管理を行っていますので、見学の際は注意事項を一読し、ルールとマナーを守って見学してください。

見学時間 9時～12時、13時～16時
※見学時間は30分程度。

料金 無料

申し込み 個人（少人数）の場合は連絡不要です。
団体（20人以上）の場合は見学の20日前までに針尾無線塔保存会（☎58-2718）に電話で申し込んでください

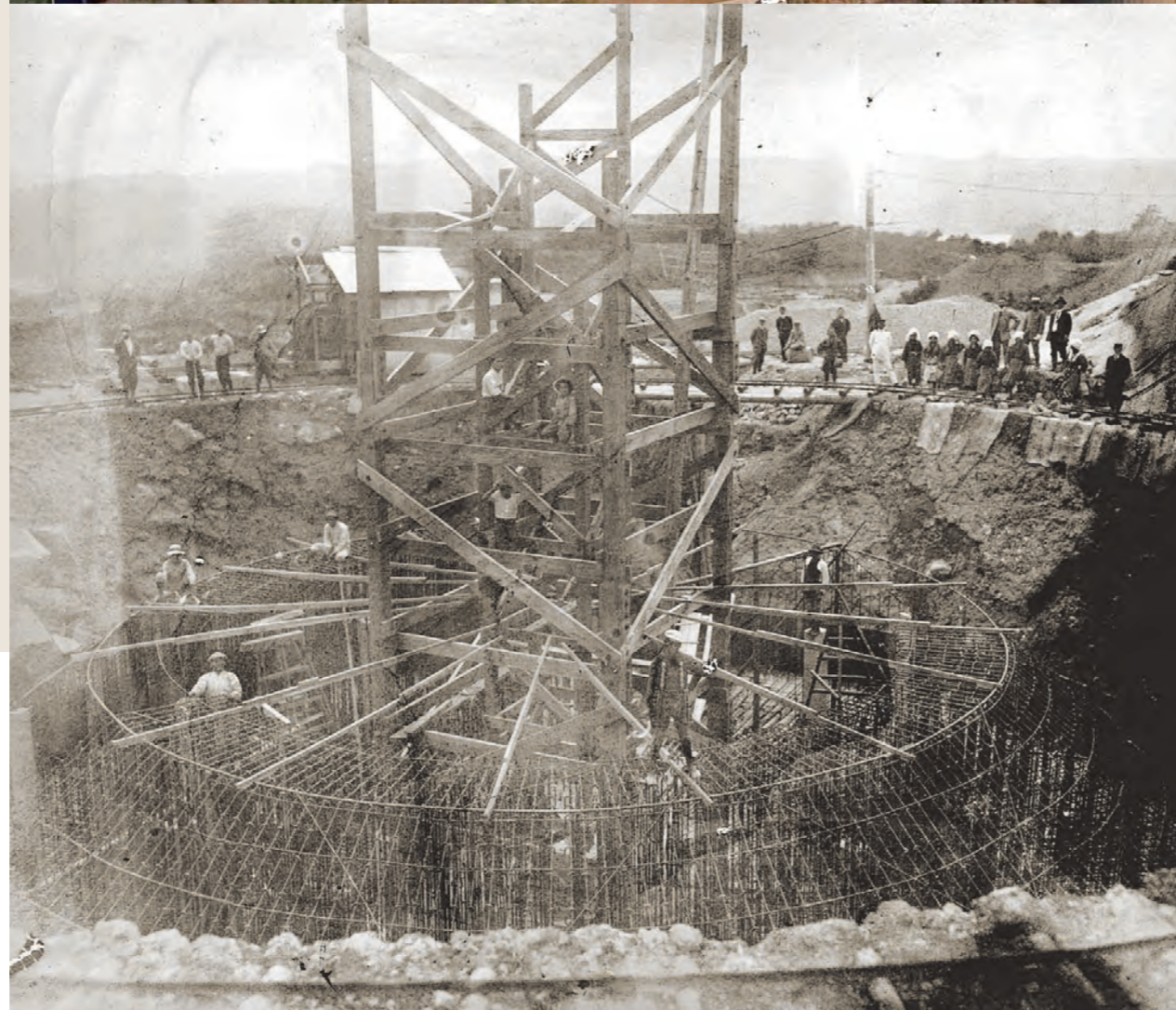
- その他
- 駐車場に限りがありますので、できるだけ乗り合わせなどでご来場ください。
 - 見学に当たっては針尾無線塔保存会会員の指示に従ってください。
 - 歩道の一部が整備されていないので、スニーカーなど歩きやすい履物でご来場ください。
 - 国の重要文化財の指定を受けた大切な国の財産ですので、マナーを守って見学してください。

● 針尾送信所見学に関する問い合わせ
針尾無線塔保存会 ☎ 58-2718

針尾無線塔基礎部分の配筋作業

基礎部分の中央に太い木材でタワーが組まれ、この中に作業用の昇降機などが設置されたといわれています。岩盤を掘削して築かれた基礎は深さ約6m、直径約24mもあります。

針尾送信所無線塔（針尾中町 382 番地）
高さ約 136m（各塔間約 300m）
基部直径 約 12m、塔頂部直径 約 3 m



日本の技術発展を象徴する近代化の記念碑

日露戦争で無線通信の重要性を痛感した日本海軍は、明治43（1910）年に、日本周辺での通信網を整備するため、東京、佐世保、台湾の3カ所に無線局建設を計画しました。

そして大正4（1915）年に千葉県に船橋無線電信所が完成し、次いで同8年に台湾高雄県に鳳山無線電信所が完成。最後に同11年、佐世保無線電信所、現在の針尾送信所が完成しました。

当時、遠距離通信には波長の長い電波（長波）が最適とされていました。長波は大きな電力で、長いアンテナから電波を飛ばす必要があったため、3カ所の無線局はいずれも非常に大規模な施設となりました。

船橋、鳳山の無線局はいずれも高さ200mの鉄骨造で、そこから傘型にアンテナを張る構造でした。これに対

し、針尾送信所は高さ約136mの鉄筋コンクリート造の無線塔を3基建て、その間にアンテナ線を張るといいう構造になりました。

針尾送信所を理解するためのキーワードとして「無線技術」と「鉄筋コンクリート技術」が挙げられます。日本が初めて無線通信を成功させたのは明治30年であり、また、日本初の鉄筋コンクリート構造物が造られたのは同36年でした。日本の技術者たちは当時最先端だったこれらの技術を徹底的に研究し、独自に発展させました。そして導入から20年余りで現在と遜色のないレベルまで引き上げ、その集大成とも言える針尾送信所を建設するに至りました。このようことから、針尾送信所はまさに日本の技術発展を象徴する記念碑的な施設であると言えることができます。



海上自衛隊 OB がご案内！海軍さんの散歩道



※写真は全てイメージです。

紹介動画



徒歩ツアー

普段は一般の立ち入りができない、海上自衛隊佐世保地方総監部敷地内の地下壕にある「防空指揮所」跡は、佐世保鎮守府が1942年に建造し、管区内の防空指揮を担いました。本ツアーでは、その指揮所跡の見学をはじめ、2017年3月で退役した護衛艦「くらま」内の食堂をイメージした「くらま食堂」などを海上自衛隊OBがご案内します。

- 日程 毎週金曜
※除外日がありますので、詳しくは佐世保観光情報センターにお問い合わせください。
- 料金 2,400円 (ガイド料・昼食・保険含む)
- 行程 9時20分集合 旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館(市民文化ホール)前→鎮守府凱旋記念館・下士官集会所跡碑・海軍橋・海上自衛隊佐世保史料館→海上自衛隊佐世保地方総監部・海兵団兵舎・渡り橋・地下壕・鎮守府正門跡見学→くらま食堂見学→13時到着・解散 海兵団庁舎
- 所要時間 約3時間30分
- 定員 20人(最少催行8人)
- 申込 開催日の7日前までに電話で佐世保観光情報センターへ

バスツアー

「海軍さんの散歩道 徒歩ツアー」の行程に「SASEBO 軍港クルーズ」と「海上自衛隊艦艇見学」を加えた豪華なバスツアーです。佐世保鎮守府の歴史をたっぷりと体感できます。

- 日程 2月2日(土)、2月16日(土)、3月2日(土)、3月16日(土)
※4月以降の予定は佐世保観光情報センターにお問い合わせください。
- 料金 6,600円 (クルーズ代・バス代・ガイド料・昼食・保険含む)
- 行程 9時45分集合 佐世保観光情報センター→海上自衛隊倉島岸壁(艦艇見学)→SASEBO 軍港クルーズ→海上自衛隊佐世保地方総監部くらま食堂見学→海兵団兵舎・渡り橋・地下壕・鎮守府正門跡見学→海上自衛隊佐世保史料館・鎮守府凱旋記念館・下士官集会所跡碑・海軍橋(徒歩にて見学)→16時到着・解散 JR佐世保駅
※艦艇見学が中止の場合、コース変更あり。
- 所要時間 約6時間
- 定員 45人(最少催行20人)
- 申込 開催日の7日前までに電話で佐世保観光情報センターへ

※ツアーへの参加には徒歩ツアー、バスツアーとも写真付き公的身分証明書が必要です。

- 鎮守府に関連したツアーなどに関する問い合わせ 佐世保観光情報センター (JR佐世保駅構内) ☎22-6630
- 鎮守府の歴史などに関する問い合わせ 文化財課 ☎24-1111



豪華バスで日本遺産をご案内！
SASEBO クルーズバス海風

オリジナルの観光バスで日本遺産の構成資産などを巡るバスツアーです。観光客のニーズに合わせた3つのコースがあり、佐世保を知り尽くしたアテンダーがご案内します。豪華クルーザーをイメージしたバスは天然木や本革シートが使用されており、ゆったりとくつろぎながらツアーに参加することができます。(所要時間 約100分)



短時間で SASEBO を満喫する
市内探訪 コース



ハウステンボス発 9時40分→西肥バスセンター発 10時20分→佐世保駅みなと口発 10時30分→旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館・海上自衛隊佐世保史料館→米海軍基地前→佐世保重工業(東門前)→赤レンガ倉庫群→第4ドック→船越展望所→九十九島パールシーリゾート 12時発→佐世保駅みなと口着 12時10分→西肥バスセンター着 12時15分

- 日程 月～水曜、金～日曜
※木曜以外に運休する場合がありますのでご注意ください。
- 料金 中学生以上 1,800円、小学生 900円
※ハウステンボス発は中学生以上 2,000円、小学生 1,000円。
- 申込 電話で佐世保観光情報センターへ (インターネット予約可)

赤字II降車観光ポイント

海軍の歴史を感じる
みなとまち コース



西肥バスセンター発 15時40分→佐世保駅みなと口発 15時50分→西九州倉庫前→米海軍佐世保基地メインゲート前→海上自衛隊佐世保史料館→市街地・とんねる横丁→三浦町カトリック教会→鯨瀬ターミナル→佐世保駅みなと口着 17時30分→西肥バスセンター着 17時35分→ハウステンボス着 18時5分

九十九島をパノラマで楽しむ
展海峰 コース



西肥バスセンター発 13時10分→佐世保駅みなと口発 13時20分→米海軍基地前→佐世保重工業(東門前)→赤レンガ倉庫群→第4ドック→展海峰→九十九島パールシーリゾート→佐世保駅みなと口着 15時→西肥バスセンター着 15時5分



紹介動画



船で佐世保港をご案内！海軍さんの港まち SASEBO 軍港クルーズ

ガイドの説明を聞きながら佐世保港を船で巡るツアーです(所要時間約60分、毎週土・日曜、祝日11時30分頃出航予定)。現在冬季運休中ですが、3月から運航を再開する予定です。料金や申し込み方法など、詳しくは佐世保観光情報センターにお尋ねください。



紹介動画

